

感染予防委員会

感染管理医師 佐藤 守彦／感染管理認定看護師 大澤 栄子

1. 感染予防委員会等の運営

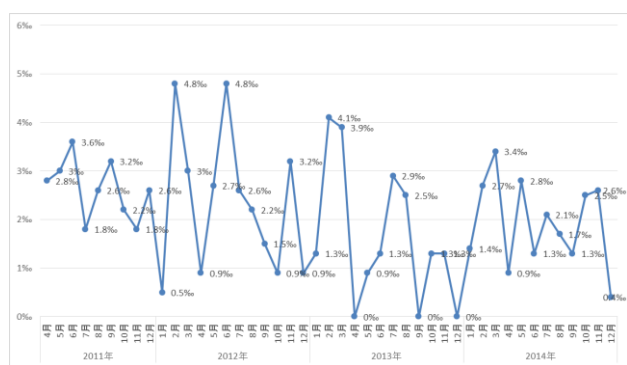
感染予防委員会は月1回、年12回開催し活動報告を行った。実働部隊である感染対策チーム（以下ICT）は、定例では週1回2時間活動し、主に環境のモニタリングや感染対策が正しく実施できているかなどのモニタリングを専用のチェックリストを用い実施した。

また、ICTは、感染対策を各部署で共有する為に全部署を対象とする感染制御スタッフ会議を実施し各部署が感染対策へ参加し、感染管理組織が連携を取りながら活動を推進できた。

2. サーベイランスの実施

1) 薬剤耐性菌サーベイランス

主にMRSA培養陽性者について監視細菌検査データを収集し、Infection control team（以下 ICT）でラウンドを行った後、病院管理者に週1回報告書を提出。各月のMRSAの感染率を出して推移を検証した。



2) 薬剤耐性菌サーベイランス

当院手術室で行われた手術の創感染サーベイランスを継続して実施。情報を職員と共有した。

3. 感染防止の指針／マニュアルの作成

感染防止マニュアルは年1回改訂を義務付けている。

JCI取得に向けて、平成24年4月に全てのマニュアルを見直し改訂を行った。感染管理プログラムを作成し、新たに建築増築時の感染リスクアセスメントの方針手順、パンデミック時の方針手順、アウトブレイク時の対応マニュアルを追加した。また、各部門における感染予防マニュアルを作成し充実を図った。

1) HBワクチン

B型肝炎に感受性のある新入職員（医師、研修医、看護職員、救命救急士、薬剤師、薬剤師補助者、検査技師、レントゲン技師、臨床工学士、リハビリを限定）を対象にHBワクチンの実施を計画した。対象者のHBワクチンの接種率は100%であった。

2) インフルエンザワクチン

インフルエンザワクチンは病院内の全職員を対象に実施し、病院全体の87.4%の職員が接種した。特に患者様と身近に接する職員の実施率が良く、感染防御の意識の高さを知る事が出来た。

4. 教育

新入職員への入職時の手洗い教育から、リンクナースや病院全体対象の教育まで顧問波多江新平先生の講演を含めて企画／運営、診療部門のみならず清掃業者などからも積極的な参加があった。また、海外で継続しているエボラ出血熱、国内で発生したデング熱などの最新情報を職員へ提供した。

5. コンサルテーション

各部署からの連絡・相談は専従ICD、ICNからICTへ伝達され、迅速な対応を行う事が出来た。また施設外においてグループ病院への教育講演や感染症対応への介入なども実施し、施設間の連携の機会にも参加できるようになった。

なかよし保育園の園児や保母を対象に手洗い教育

を実施し、流行性疾患のアウトブレイクを防止できた。

6. 研究活動

第29回環境感染学会にてICTメンバーによる7つ演題を発表した。

- 1) 当院における職種別の手指衛生について
- 2) クロストリジウム・ディフィシル感染の大規模アウトブレイク
- 3) 湘南鎌倉総合病院の新型インフルエンザ想定訓練について
- 4) 当院職員におけるインフルエンザ予防接種率改善への取り組み
- 5) MRSA感染緩徐において、栄養状態は生命予後に影響を及ぼす
- 6) BSCを用いたICT活動の評価
- 7) 当院における血液培養の年次推移について

7. 感染活動

感染管理の立場から職員に対し啓発活動を行うとともに、病院管理者との相談・報告を行う事により感染防止活動を円滑に進める事が出来た。
